

1. 件名：特定原子力施設監視・評価検討会（第49回）に係る面談
2. 日時：平成28年12月13日（火） 10時08分～13時18分
3. 場所：原子力規制庁 9階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

今井室長、熊谷補佐、三澤安全審査官、加藤安全審査官、伊藤特殊施設審査官、
牧係長

長官官房 技術基盤グループ 安全技術管理官（核燃料廃棄物担当）付

南部技術研究調査官

東京電力ホールディングス株式会社

福島第一廃炉推進カンパニー プロジェクト計画部

課長 他7名

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）から、特定原子力施設監視・評価検討会（第49回）に向けた資料の準備状況について、説明を受けた。
 - 原子力規制庁から、
 - ✓ 建屋滞留水の放射能濃度の推移のグラフについて、滞留水移送作業開始後のCs-137の濃度の予測値（計算値）と実際の濃度（分析値）と差がわかるよう拡大して明記すること
 - ✓ 供用開始後5年を超過し、使用予定であるフランジ型タンクの詳細点検を実施するとしているが、5年とはどのように設定したものなのか明確にすること
 - ✓ 4m盤におけるくみ上げ量の減少量が想定より少ない要因について、実施する対策について、要因と対応するように記載すること
- 等を求めたところ、東京電力から、次回検討会に向けて準備する旨の回答があった。

6. 資料

- 建屋滞留水処理の進捗状況について（案）
- フランジ型タンクの使用状況と今後の対応方針について
- 陸側遮水壁の状況
- 2号機海水配管トレンチ立坑Cの状況と今後の対応について